

創刊号（一九七七年一月一日合併号）から
No. 41（一九七七年二月二一日）まで

創刊号（一九七七年一月一日合併号）

創刊にあたって（※全文・左記）

党员平等の原則を犯す国会議員等への代議員権付与

三人組の離党と保革合同新党

―社会党の（危機）の根源は何か―

規約「改正」問題の本質

※創刊号の巻頭の辞（故向坂逸郎社会主義協会代表の筆による。）

創刊にあたって

ここに旬刊『社会通信』を発刊することになった。

この通信は、正確をむねとしたいと思っている。巷間伝えるごとき不正確で、面白おかしい、誰と誰とが結婚したとか、どの女優と男優とが離別したとか、どのタレントとどのタレントとが、目下恋愛中とかいったたぐいの「報道」を伝えるために、能力の限りをつくすことをもって、一生の仕事とすることをこころよしとする程度のものでないこと、もち論である。

われわれは、諸君に伝うるに不正確な事実をもってしようとは思わない。

われわれは報道として、迅速を期することむろんであるが、いい加減な噂話をもって、さも大事なことを果たすごときものではない。われわれは、社会通信というからには、社会正義の促進のために必要かくべからざることを選んで、読者に供せんとすることをもって本務としたいと思う。この通信にこう期待される。

本誌を『社会通信』という。社会百般のことを載せたいことはもちろんなれど、当分は、社会政治にことを限定したい。まま痛烈なる社会批判にわれわれの鋭鋒を向けることなきにしもあらずといえども、多くは政治のことに、限りある枚数を使用する外なきものとしたい。今日政治の種々の面を目をおおうごとき事なきにしもあらずといえども、われわれの期する所は、それに類する政治の裏面をあげきたてる事は、われわれの少しもその本務とする所ではなくわれわれは、社会正義上許すべからざること

に筆評を加えることをむねとしたい。

この雑誌は、『社会通信』とみずから称するように、社会通信であって、個人の善悪をあげつろうごときをもって、その任とするものではなく、社会のゆくえを曲げて報じて己れを利するものを嫌うものである。したがって、本誌みずからも他人を誹謗して、己れのみひとり善しとするごときものでありたくない。この点、本誌の期する所、その特長とする所である。

『社会通信』は、このようにして刊行の運びになる。このような意図をむねとして、このように善意をもって、刊行される。読者の期待を望む。

No.2(一九七七年一月一日)

本質を暴露した「改革推進グループ」―社会党休会大会の残したもの―
三人組の離党と保革合同新党②―社会党の「危機」の根源は何か―
ふたたび「代議員権」問題について
各政党は社会党「問題」をどうみているか①―自民党と民社党の見解―

No.3(一九七七年一月二日)

「代議員権」問題への私の疑問 ―社会党員のつばやき―
社会党統開大会を注目する日経連―代議員権問題に暑いまなざし
―日・ドル問題の本質とその背景
野党再編成を意図する公明党―他党は社会党「問題」をどうみているか②―

No.4(一九七七年二月一日)

国会議員に代議員権を付与することは
社会党を改良主義に変質させる道
社会党の「分裂」について
反独占・社会主義への道か
反社会主義・保革連合への道か―三人組の離党と保革合同新党③
―投稿大会の「成功」とは何か
―分裂回避のために規約で
譲歩せよとの主張について①
―社会党が科学的社会主義の思想で武装されることは「党が小さく」なることか

No.5(一九七七年二月一日)

現代情勢と社会党の「危機」―当面の情勢の特徴について―
「代議員権」問題の意味するもの
民主主義を守ろう―規約「改正」の根拠は少しもない―
◇投稿◇大会の成功とは何か②
―分裂回避のために規約で譲歩せよとの主張について―
注目される社会党統開大会のゆくえ

No.6(一九七七年二月二日)

社会党は共同戦線党であるべきでない
職場組織の空洞化に全力―日経連の労働運動対策―
「推進協議会」の文書について
◇書評◇再版された「種蒔く人」
―行動する文学への情熱を生き生きと伝える―